

## お客様各位

J Aいがふるさと旅行センター

TEL：21-3180

### 「J Aいがふるさと西国三十三所巡礼の旅 説明会」

#### 1、 西国三十三所巡礼とは

日本における最古の霊場と言われ、観音巡礼の起源とも言われています。2018年には、西国三十三所巡礼が始まってから1300年を迎えました。

奈良時代（718年）大和長谷寺の徳道上人が閻魔大王から御誓願を得て、三十三の宝印を受けたのが始まりとされており、その後衰退をしますが、平安時代に入り花山法皇が巡礼し、現在の形に整えられました。

長谷寺の開祖 徳道上人が62歳の時に病により仮死状態（現在で言うところの危篤状態におちいった時に上人の枕元に閻魔大王があらわれ「生前の悪い行いによって地獄へ送られるものが多い故、観音の霊場へ参ることにより功德が得られるよう、人々に観音菩薩の慈悲を心に解けとのお告げを受け起請文と33の宝印を授かり、現生へ戻される。しかし、当日の人々には、観音巡礼はまだ早いと受け入れられず、宝印は中山寺の石堰に納めます。その後約270年後の平安中期に当時の花山天皇(17歳)が政治的対立や私情により19歳で出家し法王となりました。那智山青岸渡寺で修行中に枕元に熊野大権現があらわれ「徳道上人の定めた観音霊場を再興するようにとのお告げを受け中山寺に納められた33の宝印を探し出しました。そして円教寺の性空上人と中山寺の弁光上人・石川寺（河内国）の仏眼上人を伴い33の札所寺院を巡回し、観音霊場の功德を世に広めました。（このことが花山法王は西国巡礼の中興の祖と言われる所以となります）

奈良・京都・大阪・兵庫・和歌山・滋賀・岐阜の2府5県にまたがり四季折々の景観が巡礼者の心を和ませてくれます。

観音巡礼は宗派を問わず、日本で最も歴史がある巡礼であり、現在も多くの参拝者が訪れています。

#### 2、 旅行当日の服装・持ち物について

服装・・・服装に関してはお寺さんから特に言われておりませんので、動きやすい服装で結構です。難所といわれる階段の多いお寺や山道があるため、歩きやすい履きなれた靴でご参加ください。

また、場所によっては善意の杖が有る所もありますが、金剛杖やハイキングにつかう杖などがあると便利です。

持ち物・・・念珠・袈裟・線香・ローソク・ライター・経本（観音経）・納め札・賽銭

### 3、 参拝方法について

- ① お寺に入る際、山門の前で手を合わせて一礼をします。帽子は脱帽してください。
- ② 境内や階段・参道は原則左側通行です。  
(参道の真ん中は神様が通る。左右どちらかに寄るのは、手水場のある方とする一説もあるようです。紀三井寺のように右側通行を指定している寺もありますが特に指定のない場合は左側通行となります)
- ③ 山門をくぐり手水場にて手を洗い・口をすすぎます。  
その際、ひしゃくに口をつけてはいけません。一度ご自身の手にとってからすすいでください。衛生上、水が流れていないときは手のみ清めます。
- ④ 釣鐘を鳴らす場合は到着した時をお願いします。帰りに突く事は縁起が悪いとされています。(突けないお寺もあります)  
出鐘(金がでていく)また、戻り鐘「昔、京都では流行り病で多数の死者がでました。鐘の合図で死人を清水寺へ送っていた際に近くの民家の人「病で亡くなった死者を見たくないため」鐘が聞こえると家に戻ったといわれている。
- ⑤ ろうそく1本・線香3本を立てます。火は必ずご自身でつけてください。  
ろうそくは上段から、線香は中央に3本まとめてください。  
多数の参拝者が訪れています。他の参拝者の迷惑にならないよう、賽銭箱・蠟燭たて、線香たて・納め札入れ・写経置き場等で立ち止まらずにお供えが終わりましたら次の方へお譲り下さい。  
蠟燭・線香をご自身で付けるのは、他の方の(ほのお)は「煩惱」を貰い受けるといわれるため。また、線香に直接ライターで火をつけるのもマナーが悪いといわれています。線香3本の意味は三宝「仏・法・僧」や「現在・過去・未来」等の意味があるようです。蠟燭たて・線香たてへの納め方は次の方がお参りしやすいような配慮です。
- ⑥ 納め札・写経は所定の箱におさめます。住所は番地まで書かないでください。  
納め札へは予めご記入をお願いします。(氏名・お願い事)  
日付は、参拝日でも〇年〇月吉日でも結構です。  
納め札入れは誰でも手を入れて持ち帰ることが出来る(本来はマナー違反)  
住所を番地まで記入すると思わぬ高額なDMが届く可能性があります。  
三重県伊賀市や三重県名張市までで止めてください。  
トラブルをふせぐためご理解下さい。  
写経をおさめられる方は、所定の場所がありますので専用の台へお願いします。
- ⑦ お賽銭は遠くから投げずに静かに添えるようにいれてください。  
お賽銭の金額にきまりはありません。お気持ちを出発前にご準備ください
- ⑧ 先達とともに読経を唱えます。  
詳細の「佛前勤行次第」は全員にお渡しします。バス車内にて安全祈願の朝のお勤めを含めて読経します。
- ⑨ 山門を出る時には合掌一礼をします。

#### 4、先達について

伊賀市在住の真言宗の住職様に先達をお願いしております。

(住職様の都合により、西国札所会公認先達様をお願いする場合もございます)  
バスには、添乗員・バスガイドも乗務いたします。

#### 5、ご朱印について

今回のツアーは、当日皆様がお参り中（読経中）にツアースタッフが代行します。  
原則、お一人様各一個（帳面・掛け軸・おいずる）とさせていただきます。

ご朱印料は、帳面300円・軸500円・おいずる200円です。

33番華嚴寺のご朱印は、3か所（現在・過去・未来）ですので35のご朱印です。

33番華嚴寺は、現在・過去・未来とそれぞれのお堂があり現在は本堂（観音堂）・  
過去は満願堂・未来は笈摺堂を意味します。

番外は3ヶ寺（法起院・元慶寺・花山院）

法起院・・・徳道上人が晩年を過ごされたお寺で、ご本尊としてまつられています。

元慶寺・・・花山天皇が出家をされて法王になられたお寺

花山院・・・花山法王がお住まいをされ41歳でお亡くなりになられたお寺

お礼参り3ヶ寺（金剛峯寺・二月堂・四天王寺）

一般的にお礼まいりとは“神社仏閣で願いを祈願し、叶った際にお礼を伝える”  
こととされています。【〇〇のお寺に行かないといけない】という正式な決  
め事はありません。

西国の場合、結願・満願された場合に「延暦寺根本中堂・東大寺二月堂・善  
光寺・高野山・四天王寺」に訪れる場合が多いですが、旅の安全を祈願した  
一回目のお寺や地元の神社仏閣にお礼参りをする方もいます。

善光寺参りが有名ですが、岐阜の33番をお参りして中山道を通って東へ帰  
る際に長野を通るため江戸の民衆が多くお参りした名残ともいわれていま  
す。今回は距離が遠すぎるため善光寺参りのツアーは予定していません。

また、道中の安全を祈願していないお寺にいても意味がないため「お礼参  
りはしない」と考える方もいます。

個人のご判断におまかせとなりますので、場合によっては12回目・13回目  
のツアーは募集人員不足により中止となる場合があります。

納経帳のご朱印代は、(35+3+3)×300円 計12,300円 41ヶ寺分

掛け軸は、(33+5)×500円 計19,000円 38ヶ寺分

おいずるは、(35+3+3) 計8200円 41ヶ寺分

となります。

帳面と笈摺は41ヶ寺分です。

掛け軸は西国33+番外3+二月堂+四天王寺となります。二月堂（11面観音）・四  
天王寺（救世観音）がご本尊です。

スタンプラリーではありません。お参りの証です。

6、 巡拝用品の販売・購入について

現物をご覧いただき、別紙の「巡礼用品申込書」に、購入する用品の数量・金額をご記入の上、ご提出ください。(納品後にご請求させていただきます)